

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

園名 江の島保育園

活動日 2026年2月

9.10.13.20.25.27日(月火水金)

クラス名(年齢) すもも(2歳児)組

年間テーマ 感覚

活動のテーマ「体を知る」

〈テーマの設定理由〉

保育室に用意してある押し箱に入って自分のからだの大きさを感じたり、遊具のスナック棒を腕に何個もつけて手の長さを調べたりする姿が見られる。自分のからだを使って、大きさや高さ、長さを知る為のあそびが多く見られるため、テーマを「自分のからだを知る」とした。

1. 活動スケジュール

2月9.10.13.20.25.27日

- 子どもが自由に使える場所に遊具を設定する。
- 危険がないよう配慮し、滑り止めを敷き、安全に使えるようにする。
- 子どもがどのように、体や道具を扱うかを見守る。
- 「どうやって降りる?」「高い所だね」「登れるかな」等の声かけをしながら子どもの反応や遊びをよく観察する。
- 子どもが遊具を使い遊んでいる様子を写真におさめる。
- 月に2回クラス会議を行い子どもの遊びの様子や反応、気づきを共有する。
- 活動内容の成果と評価を写真と共に記録に残す。

2. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

〈道具〉

- プラットホーム
- 傾斜板

〈環境〉

自由に体を動かせ、かつ安全な空間を確保した。
プラットホームが安定するよう滑り止めを敷いた。

3. 探求活動の実践

<活動の内容>

- 子どもが遊具に関心を持ち、触ったり大人に「これは何？」と尋ねたりする。
- 片足で踏み切り登る、手をついて登る。斜面を、おしりをついて足で蹴りながら降りる
- 歩いて降りるなど子どもの運動発達の段階別に、様々な体の使い方が見られた。
- 「落ちないように」と高さや幅を意識しながら上り下りを繰り返す。
- バイクと組み合わせ、急な傾斜を足の裏で蹴って登る。
- 四つ這いや腹ばいで登る。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- 「ちょっと狭いね」と言いながら幅を意識し渡る。
- 「おっこちちゃう」「登れないよ」と言う子どもに、足の裏で蹴ることを伝えると、何度も繰り返し、登りきる。
- 「橋だ」「下にはワニがいるかもよ」など、イメージを言語化しながら渡る。

※写真





5. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

年度後半の遊具としては、やや簡単な印象だった。しかし、子どもたちは様々な体の使い方を試していた。幅が狭いことで、バランスを取る事を意識していた。四つ這い、高這い、腹ばい、立位などのように姿勢変換も、どうしたら落ちないかなど思考しながら遊ぶ様子があった。室内の遊具（バイク）と組み合わせることで難易度が上がり、足の裏、腕力、腹筋等を使いながら上り下りを繰り返していた。大人は、子どもとアイコンタクトを取りながら、子どもがどのように体を使っているのか言語化し、子どもの「できた」という気持ちを受け止め、共感・評価をしながら見守っていった。また、安全には十分に配慮した。